

芸術学部 芸術学科 美術領域

教授 須田 真弘

| 教育上の能力に関する事項 | 年 月 日 | 概 要 |
|--|---|--|
| <p>◎教育方法の実践例 他大学と連携しての共同展覧会の開催</p> <p>学習効果促進のため、名古屋ボストン美術館での授業展開や美術館を活用しての現場研修</p> | <p>2015. 8. 27～2016. 10. 23</p> <p>2016. 11. 13</p> | <p>愛知県が主催する「あいちトリエンナーレ2016」開催に伴い、あいちトリエンナーレ実行委員会国際芸術祭推進室からの依頼により、地元3芸大の代表での連携会議を定期的に行いながら、展覧会を数回企画した。地域の美術教育の発展や文化芸術の振興を図った。</p> <p>本物の美術を多く学ぶために、学外の美術館を実際に訪問して授業を展開している。現場で直接自らの眼で学ぶことで作品の理解を深め、体験を通じて、より充実した作品鑑賞に努めている。</p> |
| <p>◎作成した教科書・教材 展覧会カタログなど</p> | <p>2016年度～現在</p> | <p>美術館やギャラリーが出版した展覧会図録やカタログ資料を教材として活用している。また授業内容の理解に対して事前にオリジナルのプリントを作成し、独自の資料を用意している。またインターネットやその他情報誌からまとめた資料の配布などを行っている。</p> |
| <p>◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 学生による授業評価結果</p> | <p>2016年度</p> | <p>大学の自己点検の一環として、学生からの授業評価を毎年行っている。授業に対して高い評価を受けている。</p> |

| 職務上の実績に関する事項 | 年 月 日 | 概 要 |
|---|--------------------|--|
| 特別講義 アートとテクノロジー 表現の行方 | 2016. 5. 23 | 古代から人は様々な表現を行いながら今日に至っています。アート（芸術）、とりわけビジュアルアート（視覚芸術/絵画・彫刻・版画・写真など）の中から、いくつかの作品を例に挙げ、その作品の意味や内容とテクノロジー（技術）との関係について広島国際学院大学で講義した。 |
| 特別講義 海外美術大学との交流プログラムとその先にある国境を越えた活動の可能性 | 2016. 5. 24 | 今日の大学にとって国際交流は重要な役割や意味を持っています。海外の大学との交流に伴う姉妹校提携、教員の研究活動のグローバル化、また学生の留学など、その内容は多義にわたります。大学の国際的競争力や評価にも大きく関係する国際交流と自らの海外での活動について、また名古屋芸術大学の国際交流について尾道市立大学で講義した。 |
| 教員作品展 | 2016. 6. 10～15 | 本学のオープンキャンパスに合わせて名古屋芸術大学の西キャンパス Art & Design Centerにて開催される教員作品展に油彩作品を出展した。 |
| 作品講評と指導 KNIT展 | 2016. 7. 27 | 三重県名張市の福祉センターふれあい会館で行われた、名張、桔梗丘、上野工業、上野商業、伊賀白鳳、上野の6高等学校が参加しての美術展覧会KNIT展のゲスト講師として招聘され、作品講評と学生指導を行った。 |
| 展覧会企画 SKY OVER III | 2016. 8. 10～10. 23 | あいちトリエンナーレ2016と連携して、地元3芸大で芸術大学連携プロジェクトの展覧会を企画した。若手アーティストを紹介するシリーズの3回目として「SKY OVER III」展をアートラボあいちで開催した。また長者町会場では担当教員として小作品を出展した。 |
| 絵画コンクール審査員 長久手市文化の家 | 2016. 8. 23 | 長久手市主催の長久手市文化の家にて開催される絵画コンクール、小学生/中学生の部での審査員を務めた。また9月10日に行われた表彰式にて挨拶と受賞者への授与を行った。 |
| 展覧会企画 アラムナイ・コレクション | 2016. 10. 7～12 | 本学を卒業後にアーティストで活躍する方の作品を理事長が近年コレクションしている。その作品を通じて卒業生の活動や評価を感じてもらうため、作品展覧会を企画して、名古屋芸術大学西キャンパス Art & Design Centerにて開催した。 |
| 展覧会企画 Dialogue between Brighton & Nagoya 名古屋芸術大学 プライトン大学 姉妹校提携 20th anniversary | 2016. 12. 9～14 | 名古屋芸術大学と英国のプライトン大学との姉妹校提携20周年を記念して、名古屋芸術大学の西キャンパス Art & Design Centerにて展覧会を企画開催した。プライトン大学の教員5名と本学教員5名が2人1組になって、対話形式でのドローイング交流制作を試みタイトル「Drawing via Dialogue Project」としてドローイングの作品出展と作品展を開催した。 |
| 作品講評と指導 伊賀白鳳高等学校卒業制作展 | 2017. 2. 28 | 三重県伊賀白鳳高等学校工芸デザイン科デザインコースの卒業制作展にゲスト講師として作品講評指導を行った。 |